

3日目②「東北地方の経験者、活動者からの体験談」

2024年4月20日（土）クレオ大阪中央にて

講師：木須八重子さん

（前（公財）せんだい男女共同参画財団理事長）

有坂紀美江さん

（仙台市宮城野区東八番丁町内会役員）

木須さんからは、2008年に仙台市宮城野区長として赴任し、震災当時、区対策本部長として陣頭指揮をとった体験を聞きました。

東日本大震災前ですが、当時男性中心だった防災活動に女性の声を届けたいと思いから、岩切地区の女性たちと対話を重ね、2010年6月に「岩切・女性たちの防災宣言」をつくり防災訓練で披露したそうです。宣言では、みんなが安心して暮らすために自分たちができることを考え行動することが



述べられています。そして、その翌年の2011年3月に東日本大震災が起きました。岩切の女性たちは混乱する避難所の中で、活動をしますが出来ることは限られていました。そこで、震災の経験を踏まえてさらに内容を深めた「岩切・女性たちの防災宣言 2015」を作成し、大切な人、まちを守るために、学び、行動し、伝え続けていかなければという思いを宣言として可視化しました。この宣言は、国連防災世界会議での安倍総理のスピーチでも紹介されました。

次に、有坂さんからは、震災当時の被災体験を時系列でお聞きしました。帰宅するのに2時間近く要したこと。家族の安否がなかなか取れなかったこと。地元の避難所は帰宅困難者が来られ地元の方は入れなかったこと。そして、所属するNPO法人が運営する公立の児童館では、妊婦と乳幼児だけの避難所を開設したことなどのリアリティに富んだ体験を聞きました。震災後は、地に足をつけた活動の必要性を感じ地元の町内会の役員となり、日ごろから地元で女性たちと仲間になりネットワークをつくり「生き心地のよいところになりたい」と同じ目的で、男性の役員とともに活動しています。震災時には弱い立場である女性、子ども、高齢者への人権が脅かされる場面があることを踏まえ、平時から地元で女性がファシリテーターとして活躍することが重要と伝えました。

最後に、木須さんのファシリテーションでふりかえりのワークショップを行いました。『サイモン・シネックの「一緒にいたい」と思われるリーダーになる』の紹介があり、まず行動を起こそう、仲間を探そう、ビジョンを見つけよう、信じてやり抜こうといったキーワードを説明しました。その後に「どんなリーダーになっていたいか?」、「そのための最初の第一歩を何から始めるか?」についてそれぞれ考え、受講者一人ひとりから宣言として発表しました。

木須さんからまとめの言葉として、「日常でできていないことは、非日常ではなおのことできません」、「日常をジェンダー平等の視点な社会にしていくことは最大の防災です」と、震災時の経験を踏まえた大切な言葉が述べられました。

